

平成24年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名		脳科学研究戦略推進プログラム		担当部局庁	研究振興局	作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度		平成20年度～		担当課室	ライフサイエンス課	ライフサイエンス課長 板倉康洋		
会計区分		一般会計		施策名	X-1 ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進及び倫理的課題等への取組			
根拠法令 (具体的な条項も記載)		-		関係する計画、通知等	長期的展望に立つ脳科学研究の基本的構想及び推進方策について(第1次答申)(平成21年6月)、新たなライフサイエンス研究の構築と展開(平成21年12月ライフサイエンス委員会)、第4期科学技術基本計画(平成23年8月閣議決定)、平成24年度科学技術重要施策アクションプラン(平成23年7月21日総合科学技術会議)			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)		脳の発達障害・老化の制御や、精神神経疾患の病因解明、予防・治療法の開発を可能にするとともに、失われた身体機能の回復・補完を可能とする技術開発等をもたらし、医療・福祉の向上に最も貢献できる研究分野である脳科学研究について、少子高齢化を迎える我が国の持続的な発展に向けて戦略的に推進し、成果を社会に還元することを目指す。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)		大学、研究機関等を対象に、実施機関を公募し、政策課題に対応して文部科学省が設定したミッションを大学、研究機関等が実施。 脳内情報を解釈・制御することにより、脳機能を理解するとともに脳機能や身体機能の回復・補完を可能とする「ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)の開発」、脳科学研究の共通的な基盤となる先進的なリソースの「独創性の高いモデル動物の開発」、ヒトの社会性障害の解明・診断等や社会性の健全な発達促進に応用することを目標とした「社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発」及び人間の一生に着目し、心身の健康を支える脳の機能や健康の範囲を逸脱するメカニズム等を解明することを目標とした「心身の健康を維持する脳の分子基盤と環境因子」、精神・神経疾患の発症のメカニズムを明らかにし、早期診断、治療、予防法の開発を目標とした「精神・神経疾患の克服を目指す脳科学研究」及び複雑かつ多階層な脳機能を解明するため、様々なモデル動物から発生する多種類、多階層情報による情報基盤の構築を目指した「脳科学研究を支える集約的・体系的な情報基盤の構築」に関する事業を実施。						
実施方法		<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)				21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求
		予算の状況	当初予算	2,300	2,390	3,590	3,487	3,658
			補正予算	-	-	-	-	-
			繰越し等	-	▲7	7	-	-
			計	2,300	2,383	3,597	3,487	3,658
		執行額	2,299	2,383	3,576	-	-	
執行率(%)	100.0%	100.0%	99.4%	-	-			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)		成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)
		論文数	成果実績	報	約220	約260	約400	
			達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
		機関数及び課題数	活動実績	機関数	31	28	36	-
			(当初見込み)	課題数	21	22	69	
単位当たりコスト		99(百万円/機関)		算出根拠	99(百万円/機関) =(平成23年度執行額:3,576百万円)/(機関数:36)			
平成24・25年度予算内訳	費目		24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	科学技術試験研究委託費		3,483百万円	3,650百万円	日本再生戦略に関する「特別重点要求」(ライフ分野) 1,200			
	諸謝金		1.2百万円	2.3百万円				
	職員旅費		1.6百万円	2.0百万円				
	委員等旅費		0.9百万円	3.0百万円				
	庁費		0.5百万円	0.6百万円				
	計		3,487百万円	3,658百万円				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	○政策課題の解決に向け、関係省庁と連携、協働して戦略的に事業を推進している。具体的には医療・福祉の向上につながるため、厚生労働省と連携した事業を進めている。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	○事業開始前に公募を行い、審査委員会において採択機関を決定。 ○課題解決型の明確な目標設定を持った国の委託研究プロジェクトであるため、支出先の使途の把握については厳格に実施している。具体的には、全ての委託契約について支出先・使途を把握し、備品が適切に購入されたか等について、現地での確認等も含む額の確定調査を実施している。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	○BMIの開発については、総合科学技術会議の科学技術重要施策アクションプランの対象施策として総務省・厚生労働省との連携・分担の下に実施することとされており、効率的かつ着実に実施している。 ○本事業全体の円滑な実施のため、競争的資金制度の運用について統括するプログラムディレクター、プログラムオフィサーを配置しており、目標の達成に向け、受託者へ戦略的見地から指導・助言を行っている。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	※類似事業名とその所管部局・府省名 <small>脳の仕組みを活かしたイノベーション創成型研究開発・総務省/脳情報利用障害者自立支援技術開発実現プロジェクト・厚生労働省</small>	
○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	<p>○平成23年度で研究開始後3年度目にあたる課題については、厳格に中間評価を実施し、残りの所定の研究期間(2年間)で得られる成果を見据え、今後の研究の体制や効率化を、事業の縮小も含めて検討を行うべき。</p> <p>○研究成果の社会還元に向け、厚生労働省等と出口を見据えた連携を図りつつあるが、今後は連携を一層深め、一貫した支援が行えるような構造を構築するなど役割分担を図りながら効率的・効果的に事業を推進できるように努めるべき。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点: 本事業は、脳科学研究について文部科学省が設定したミッションを大学、研究機関等に委託し実施する競争的資金であり、類似事業等の観点から検証を行った。</p> <p>2. 所見: 本事業は、平成21年度レビュー等の指摘を踏まえ、24年度において予算の縮減を図るなど一定の見直しを図ったことは評価するものの、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、積算単価を見直すなどコスト削減等に努めるべきである。また、他機関等との類似事業との役割分担を明確にするために、事業内容を再点検すべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	<p>○これまでの進捗及び成果を踏まえ、事業の効率化及び重点化を図ることにより、概算要求に△9,428百万円反映した。</p> <p>○BMIの開発については、総合科学技術会議の科学技術重要施策アクションプランの対象施策として総務省・厚生労働省との連携・分担の下に実施することとされており、それぞれ役割分担を明確にしつつ(文部科学省: 大学等における基礎研究、総務省: 情報通信技術等を活用した実用化開発、厚生労働省: 医療現場等における実証・臨床研究)、成果の共有・活用・発展等の連携を図りながら効率的に推進している。</p>		
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<p><事業仕分け> 第3弾 ワーキンググループA ○事業番号・事業名: A-24・競争的資金 ○WGの評価結果 (制度): 見直しを行う (予算): 予算要求の縮減(1割程度) ○とりまとめコメント: 残念ながら、これまでの仕分けの結果が十分に理解されていなかった。科学技術振興調整費については、継続事業終了時点を持って廃止、つまり23年度の新規事業の募集は停止。トップダウン型事業については一つに統合。そして研究成果最適展開支援事業と産学イノベーション加速事業についてはボトムアップ型の科学研究費補助金とトップダウン型の戦略的競争的資金とは別立てで、民間の負担をいれて行うべきものであるかも含め整理すること。 予算については、実際の研究に必要な部分に効果的に使っていただくことに異論はないが、特にトップダウン型事業を集約することに伴い、様々な手間・手続きを整理することによって、1割程度削減しても同等の成果が得られることから、1割程度の削減とする。</p> <p><政策評価書> ○政策評価書記載ページ: http://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/1291037.htm</p> <p><関連ホームページ等> ○事業のホームページ: http://brainprogram.mext.go.jp/</p>			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0265	平成23年行政事業レビュー	0248

文部科学省
3,576百万円

諸謝金 1.9百万円
職員旅費 1.2百万円
委員等旅費 1.9百万円
庁費 0.03百万円 } を含む

脳の発達障害・老化の制御や、精神神経疾患の病因解明、予防・治療法の開発を可能にするとともに、失われた身体機能の回復・補完を可能とする技術開発等をもたらし、医療・福祉の向上に最も貢献できる研究分野である脳科学研究について、少子高齢化を迎える我が国の持続的な発展に向けて戦略的に推進し、成果を社会に還元することを目指す。



[公募・委託]

A. 脳科学研究戦略推進プログラム
: 3,571百万円

大学・独立行政法人等(全36機関)

脳科学研究を実施している大学、研究機関等を対象に、実施機関を公募し、政策課題に対応して文部科学省が設定したミッションを大学、研究機関等が実施。
脳内情報を解釈・制御することにより、脳機能を理解するとともに脳機能や身体機能の回復・補完を可能とする「ブレイン・マシン・インターフェース(BMI)の開発」、脳科学研究の共通的な基盤となる先進的なリソースの「独創性の高いモデル動物の開発」、ヒトの社会性障害の解明・診断等や社会性の健全な発達促進に応用することを目標とした「社会的行動を支える脳基盤の計測・支援技術の開発」及び人間の一生に着目し、心身の健康を支える脳の機能や健康の範囲を逸脱するメカニズム等を解明することを目標とした「心身の健康を維持する脳の分子基盤と環境因子」、精神・神経疾患の発症のメカニズムを明らかにし、早期診断、治療、予防法の開発を目標とした「精神・神経疾患の克服を目指す脳科学研究」及び複雑かつ多階層な脳機能を解明するため、様々なモデル動物から発生する多種類、多階層情報による情報基盤の構築を目標とした「脳科学研究を支える集約的・体系的な情報基盤の構築」に関する事業を実施。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

A. 国立大学法人東京大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費・謝金	研究者及び研究補助者	114			
物品費	設備備品費(経頭蓋磁気刺激装置(TMS装置))	100			
その他	外注費(解析)	14			
旅費	国内旅費・外国旅費	5			
間接経費		70			
計		303	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立大学法人東京大学	社会的行動の基盤となる脳機能の計測・支援のための先端的研究開発	303	企画競争	-
2	大学共同利用機関法人自然科学研究機構	先端的遺伝子導入・改変技術による脳科学研究のための独自の霊長類モデルの開発と応用	279	企画競争	-
3	株式会社国際電気通信基礎技術研究所	日本の特長を活かしたBMIの統合的研究開発	270	企画競争	-
4	国立大学法人東京医科歯科大学	生涯に亘って心身の健康を支える脳の分子基盤、環境要因、その失調の解明	216	企画競争	-
5	国立大学法人名古屋大学	情動の制御機構を解明するための神経情報基盤の構築	154	企画競争	-
6	公益財団法人実験動物中央研究所	先端的遺伝子導入・改変技術による脳科学研究のための独自の霊長類モデルの開発と応用 コンマーマモセットの遺伝子改変技術の基盤整備	115	企画競争	-
7	国立大学法人名古屋大学	広汎性発達障害と統合失調症のゲノム解析を起点として、発症因に基づく両疾患の診断体系再編と診断法開発を目指した研究:多面発現的効果を有するゲノムコピー数変異(CNV)に着目して	96	企画競争	-
8	国立大学法人東京大学	生涯に亘って心身の健康を支える脳の分子基盤、環境要因、その失調の解明 代謝恒常性の破綻と環境ストレスによる脳老化・変性促進の分子基盤解明、及び環境からみた脳神経発生・発達の健康逸脱メカニズムの解明	89	企画競争	-
9	大学共同利用機関法人自然科学研究機構	日本の特長を活かしたBMIの統合的研究開発 動物実験による、ブレイン・マシン・インターフェースの開発に向けた人工知覚・中枢神経刺激法の開発とBMI用統合データベースの構築	83	企画競争	-
10	国立大学法人京都大学	先端的遺伝子導入・改変技術による脳科学研究のための独自の霊長類モデルの開発と応用 遺伝子改変霊長類モデルの開発と高次脳機能の解析	81	企画競争	-